

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.26 No.9 September 2025

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



9

CONTENTS

- ・ 巻頭言
神話の特徴
／井上 昭洋 1
- ・ 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」
(19)
ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相⑧
／加藤 匡人 2
- ・ 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (27)
台湾における災害復興と宗教
／山西 弘朗 3
- ・ イスラームから見た世界 (36)
イスラームの信仰を支えるモノやツール③
／澤井 真 4
- ・ 日本占領期の香港—植民地研究の視点から— (5)
日本による植民地統治の変化：「文化政治」「内地延長主義」への転換
／山本 和行 5
- ・ ニューヨーク通信 (25)
ニューヨークの夏
／福井 陽一 6
- ・ 2025 年度公開教学講座：「元の理」の学術的研究とその新しい展開を求めて (3)
第3講：「元の理」の社会思想
／澤井 治郎 7
- ・ おやさと研究所ニュース 8
第378回研究報告会 (6月30日) /
第379回研究報告会 (7月9日) /
第7回 EASSSR (東アジア宗教科学学会) 年次大会で発表 / 「2025 年度天理大学アメリカス学会夏期定例研究会」で発表

巻頭言

神話の特徴

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

神話とは、まず第一に、世界がどのように始まり、人間がいかんして誕生したのかを説明する物語である。また、なぜ太陽が昇り沈むのか、なぜ雨が降るのか、なぜ山が火を噴くのかといった自然現象の理由を語り、さらには社会の秩序や慣習がどのように成立したのかを説明する物語でもある。そこには、神や超自然的存在、英雄などが登場し、それぞれが象徴的な役割を果たす。神話は特定の社会において、その価値観や世界観、集団のアイデンティティと深く結びついており、信仰や儀礼とも密接に関係している。それは単なる空想の産物ではなく、人々に「真実」として受け入れられ、主に口承によって、世代を超えて受け継がれてきた物語である。

神話と同様に口承文芸に属するものとして、伝説や昔話がある。神話は、人間存在や世界についての根源的な問いに答える物語であり、歴史的事実とは無関係でありながら、人々に絶対的な真理として受け入れられている。これに対して伝説は、弘法大師の逸話や『ハーメルンの笛吹き男』のように、実在したとされる王や英雄、聖人、また特定の場所や出来事についての物語であり、ある程度の歴史的事実を含むと信じられている。一方、昔話は『鶴の恩返し』や『三匹の子ぶた』のように、想像上の物語である。教訓的な意味を持つこともあるが、娯楽性が強く、語り手も聞き手もそれを事実として受け取ることはない。

神話がいつ生まれたのかを正確に突き止めることは困難である。たとえば、古代メソポタミアの『ギルガメシュ叙事詩』や古代ギリシアの『ホメロス叙事詩』も、文字として記録された時期は推定できるが、その口承の起源はさらに古い時代にさかのぼると考えられている。また、神話がどのようにして生まれたかについても、物語の内容から推測するほかない。世界や人間の起源、自然現象の原理、出来事の原因など、意味づけを必要とする問いに答える語り、神話の起源だった

のかもしれない。あるいは、英雄の人物の功績や大きな社会的出来事、シャーマンの神秘体験などが語り継がれるうちに、それらの語りが神聖化され、次第に神話へと姿を変えていったのかもしれない。

神話の特徴は、主としてその口承性と集合知としての性質にあると言える。神話とは、文字の発明以前から共同体の中で語り継がれ、多くの人々の記憶や語りが積み重なってできた集合知の産物であり、共同体の記憶そのものである。そのため、神話の直接的な著者を同定することは不可能である。たとえば、『古事記』は稗田阿礼が誦習した伝承を太安万侶が編纂したものとなるが、稗田阿礼は語り部であり、太安万侶は編纂者であった。2人は、口伝で語り継がれてきた共同体の記憶である神話を文字化・テキスト化することに重要な役割を果たしたが、『古事記』の原作者とは言えない。

口承文芸であり集合知でもある神話のもう一つの特徴は、そのストーリーの断絶性である。神話の場合、話の流れが途切れたり、全く繋がりのない展開になったり、唐突に終了したりすることがままある。このような断絶性が生じる要因はいくつか考えられる。まず、物語が継承される際に、多くの語り手がそれぞれの文化的背景に基づいて物語に手を加えたため、一貫性が失われた可能性がある。また、異なる集団の神話が集団の統合や集団間の交流によって1つの神話にまとめられる過程で、ストーリーの整合性が損なわれる場合もあるだろう。さらに、神話自体が物語としての完結性よりも宗教的真理の伝達を重視したため、宗教的メッセージが優先された結果として、断絶性が生じたとも考えられる。

神話の特徴として、著者・原作者が不在である点と、物語の一貫性や完結性を必ずしも必要としない点を挙げることができる。これらの点は神話を理解する際に留意しておくべきだろう。